

石川啄木直筆資料展

「明治43年1月～6月の書簡より」

函館市文学館では、「函館啄木会」のご協力をいただき、毎年4月と10月に「石川啄木直筆資料」の展示替えを行っています。

今年度下期は、明治43年1月～6月に東京の本郷から、函館の宮崎竹四郎・大四郎親子や、岩崎正宛てに出したはがき3通と手紙3通を展示します。

3月の宮崎大四郎宛ての手紙では、前年末に老父が上京し、今月末に妹も同居するかもしれない……など一家の生活が啄木の肩にかかる様子がわかります。また、同氏宛ての4月の手紙では、妻節子の“おめでた”の報告と『二葉亭四迷全集』の仕事を任されたとあります。さらに5月のはがきでは、転居先を探しているが条件が合わず、今の所へもう少し置いてもらうことを伝えています。

6月の岩崎正に宛てた手紙では、函館の思い出を「君の手紙はなつかしい手紙だった。手紙を読みながら僕も一緒に大森浜の音を聴いた。あの波の音！僕が海といふものと親しんだのは、実に彼の青柳町の九十日間だけであった。(中略)砂山の頂に南国の木の実を埋めたことも忘れはしない。」と記しています。また、節子と二人で健康を害して、大四郎に工面してもらった転居費用を止むを得ず使ってしまったことなどが書かれおり、啄木の様々な心模様を読み取っていただけることと思います。

展 示 資 料

1. 明治43年 1月 1日 岩崎 正 宛はがき
2. 明治43年 1月 1日 宮崎 竹四郎・大四郎
宛はがき
3. 明治43年 3月13日 宮崎 大四郎 宛書簡
4. 明治43年 4月12日 宮崎 大四郎 宛書簡
5. 明治43年 5月 2日 宮崎 大四郎 宛はがき
6. 明治43年 6月13日 岩崎 正 宛書簡



会 期 令和4年10月15日(土)～令和5年4月9日(日)
(休館日：11/14～18, 12/5, 12/31～1/3,
1/19, 2/16, 3/16)

会 場 函館市文学館2階展示室